

石川九楊

「書は音楽である」 講演会&演奏会

石川九楊傘寿記念／一般財団法人文字文明研究所設立記念

日時: 2025年11月13日(木)
16:00開演(15:30開場)

会場: 旧東京音楽学校奏楽堂
東京都台東区上野公園8-43

チケット 一般: 5,000 円 (全席自由・税込)

予約サイト: <https://confetti-web.com/@/ishikawa2025> (東京コンサーツ オンラインチケットサービス)

電話予約: 050-3092-0051 (カンフェティチケットセンター: 受付時間 平日 10:00-17:00 ※オペレーター対応)

問い合わせ: 東京コンサーツ 03-3200-9755 (平日 10:00-18:00)

石川九楊『歎異抄 No.18』(部分) 1988年

出演

講演・石川九楊(書家)

演奏・書譜楽「歎異抄No.18～いはんや悪人をや～Ver.2.0」
ピアノ五重奏

ヴァイオリン: 亀井庸州、福崎雄也

ヴィオラ: 阿部 哲/チェロ: 北嶋愛季

ピアノ: 岡野勇仁



「書は音楽である」

なぜ、そう言い切れるのか、を解きあかす講演とその実践

書とは「筆先と紙との摩擦によって繰り広げられる筆蝕^{ドラマ}の劇」であり、
また筆蝕は書き進む力「速度・深度・角度」からなる——（石川九楊）。

石川九楊（いしかわ・きゅうよう）
書家。一九四五年福井県生まれ。京都大学法学部卒業。一般財団法人文字文明研究所理事長・京都精華大学名誉教授。「書は筆蝕の芸術である」ことを解き明かし、書の構造と歴史を読み解く。評論家としても活躍し、日本語論、日本文化論は各界にも大きな影響を与える。作品制作・執筆活動、いずれの分野でも最前線の表現と論考を続け、制作作品は二〇〇〇点以上、著作刊行は一〇〇点を超える。二〇二四年、これまでの全作品を網羅した『石川九楊全作品集（思文閣出版）』を上梓。最新刊は『書を学ぶあなたへ』（芸術新聞社より十月末刊行）。



書家・石川九楊

石川九楊の書『歎異抄No.18』にひそむ音を取りだす。すなわち書かれた一点一画の筆蝕を計測・解析・数値化し楽曲とする。石川の「書は音楽である」との論を実践する画期的な試みは、2024年夏の大展覧会「石川九楊大全」と時を合わせ弦楽四重奏として世界初披露、話題を呼びました。それから一年を経て本プロジェクトはさらなる深化を遂げ、ピアノ五重奏（ピアノ＋弦楽四重奏）としてバージョンアップ。ふたたび上野の森にて書の音を響かせます。石川みずから「生涯の代表作」と位置づける作品『歎異抄No.18』、その「書の音楽化」による表現世界を、石川の語る最新の論考とともにご堪能ください。



2024年の初演の様子：弦楽四重奏byカルテット・オリーブ
ヴァイオリン：澤 亜樹・福岡雄也/ヴィオラ：阿部 哲/チェロ：山澤 慧
Photo: Tairadate Taira

日時：2025年11月13日（木）16:00開演（15:30開場）

会場：旧東京音楽学校奏楽堂（東京・上野公園）

第1部 講演・石川九楊「書は音楽である」

第2部 演奏・書譜楽「歎異抄No.18～いはんや悪人をや～Ver.2.0」
ピアノ五重奏



亀井庸州：ヴァイオリン
©TAKUMA SUDA



福岡雄也：ヴァイオリン



阿部 哲：ヴィオラ



北嶋愛季：チェロ
©fukayatakahiro



岡野勇仁：ピアノ

計測・解析・数値化・アプリ化：堤本禮太、スコット・アレン、京都精華大学メディア表現学部メディア表現学科イメージ表現専攻 Latent Media Lab.
アドバイザー：浦部雪 / 監修：塚田哲也（一般財団法人文字文明研究所） / 制作協力：東京コンサーツ
主催：石川九楊傘寿記念祝賀会実行委員会（楽書會 / 一般財団法人文字文明研究所）